



発行日：平成27年1月15日
〒969-3492
福島県会津若松市河東町谷沢
字前田21番地2
TEL：0242-75-2100(代表)
FAX：0242-75-2150(総務課)
E-mail：a-keiei@fmu.ac.jp
企画発行：事務局経営企画室

コンテンツ一覧

- 年頭のご挨拶 他……………1
- 当センター診療科のご紹介……………2
- 臨床検査部の血液検査について……………3
- 栄養管理部のご紹介……………4
- リハビリテーション科出前講座……………5
- クリスマスコンサート 他……………6

年頭のご挨拶

附属病院長 鈴木 啓二



新年明けましておめでとうございます。

旧県立会津総合病院と旧県立喜多方病院が統合して公立大学法人福島県立医科大学会津医療センターとして発足し、二年目の春を迎えました。これもひとえに地域の皆様方や医療保健福祉機関各位のご支援ご声援のおかげとあらためて御礼申し上げます。

旧県立病院時代から実施して参りました政策医療である結核を含めた感染症医療やへき地医療の支援等も拡充・強化し、さらに大学附属施設として医療・教育・研究を支える拠点として活動して参りました。

当センター内には「漢方医学センター」、「血液疾患治療センター」、「最先端内視鏡診断・治療センター」、「脊椎・脊髄先進医療センター」、「緩和ケアセンター」を設け、従来、会津に不

足していた診療科の新設、高齢化率の増加に対応した診療内容の拡充など、各診療科の専門領域に特化した高度な医療を提供し、関係医療機関と協働して会津地方で完結できる医療を目指して参りました。おかげさまで昨年は当センターの医療の質の高さを紹介する報道がテレビや新聞、雑誌等でも紹介されました。

教育面では福島県立医科大学医学部学生の実習を受け入れており、新年度からさらに看護学部学生の実習も計画されています。研修病院として臨床研修医や後期研修医も継続して受け入れて参りますので、患者の皆様やご家族の皆様には、当センターが将来を担う人材の育成機関であることへのご理解とご協力をお願い申し上げます。

当センターは、会津全域の医療保健福祉関係機関の皆様との連携を密にしながら、職員一同、会津の地域医療に貢献し、大学附属病院として、また公的病院としての使命を果たして参りますので、引き続きご支援ご声援のほど宜しくお願い申し上げます。



柏木 久美子 副主任看護技師が 「在宅看護専門看護師」に認定されました

専門看護師とは

専門看護師認定審査に合格し、ある特定の専門分野において卓越した看護実践能力を有することを認められた者をいいます。実践、相談、調整、倫理調整、教育、研究の6つの役割を發揮します。

現在、福島県内で専門看護師に認定されている者は8名のみとなっており、その中で【在宅看護分野】に認定されているのは、柏木副主任看護技師のみです。

柏木副主任看護技師より

当院では、入院前から患者さんが安心して医療を受けられるよう、初診時から一人ひとりの状況を身体的、社会的、精神的背景から把握し、外来通院中から入院一退院後も一貫した管理を支援するシステムが導入されております。

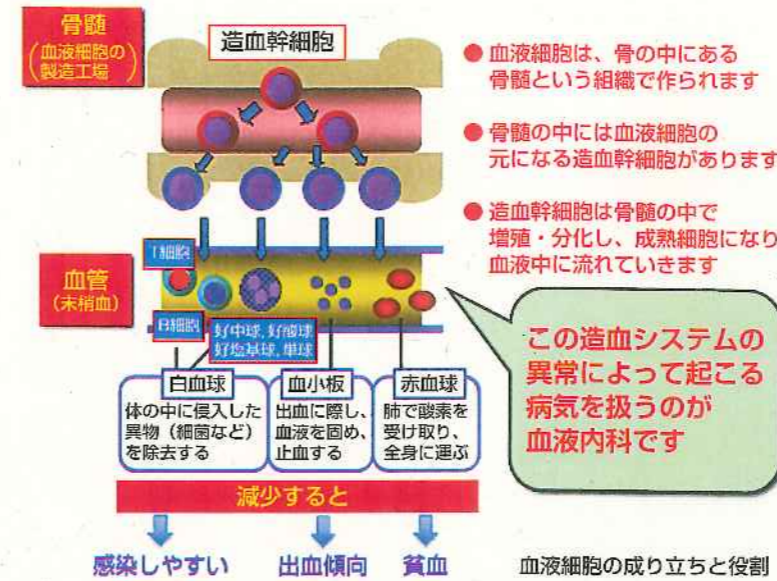
これは、全国でも先駆的な取り組みです。私はこのシステムを担う患者支援センターに所属して、外来患者さんの在宅療養支援や入院患者さんの退院支援を行っています。どうぞよろしくお願いたします。

《当センター診療科のご紹介》

— vol.2 血液内科・血液疾患治療センター —

血液内科学講座 教授 大田 雅嗣

「血液内科」という診療科名には馴染みのない方も多いと思います。血液細胞の異常による病気を扱います。血液細胞の成り立ちと役割について示しました。



多くのスタッフに支えられています。

- 会津地域の血液疾患治療拠点としての役割を担っています。
- 白血病、悪性リンパ腫、多発性骨髄腫などの造血器悪性疾患に対する化学療法、分子標的療法に力を入れています。エビデンスに基づいた最善の治療を提供します。
- 種々の原因で起こる貧血、血小板減少、凝固因子の異常などの疾患についても適切な診断のもと最新の治療を提供しています。
- 地域医療機関の機能を補完的に活用し、他の診療科の支援も受けながら会津で完結できる血液疾患診療に貢献しています。
- 緩和ケアセンターと連携し、患者さんの視点に立った全人的医療を実践しています。
- おしらせ
 - 外来診療：月曜日から金曜日の毎日、午前・午後外来診療を行っています。セカンドオピニオン外来も実施しています。
 - 外来化学療法：化学療法認定看護師が専用治療室で治療のお手伝いをします。
 - 病棟診療：4階北病棟で看護師、薬剤師、栄養師、検査技師等のスタッフと入院生活を応援します。専用の空調、空気清浄装置を備えた病室を用意し、高度な化学療法に対応しています。
 - 自家末梢血幹細胞移植療法を導入し難治性血液疾患に対する治療の選択肢が広がりました。

詳しくは病院ホームページをご覧ください。 | 会津医療センター血液内科

検索



〈専用無菌病室〉



〈外来化学療法室〉



〈幹細胞移植用検査室〉

臨床検査部の血液検査について

「臨床検査部」では、臨床検査技師が尿の一般検査、血液の生化学・免疫検査、細菌検査、輸血検査、心電図などの生理検査、病理検査など多くの検査を実施していますが、今回は「血液内科」に関連の深い「血液検査」についてご紹介します。

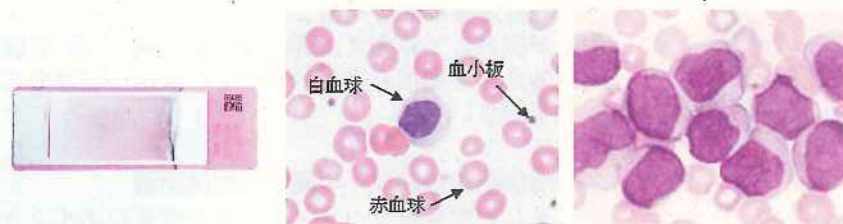
血球算定（紫のふたの採血管で検査します）

自動分析装置を用いて血液中の細胞成分（赤血球、白血球、血小板）を数えることで、貧血や白血病等の血液造血器疾患の疑いがないかを調べます。



血液像検査（血球算定と同じ採血管で検査します）

スライドグラスに薄く引き伸ばした血液を染色し、血液中の白血球・赤血球・血小板などの細胞形態を顕微鏡で観察することを血液像検査と言います。わずかな異常細胞は顕微鏡下で初めて発見されることも少なくありません。わずかでも異常細胞が観察された場合は臨床の先生と連絡をとりあって判断していきます。



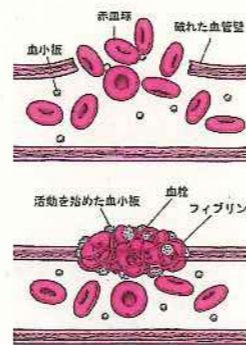
【血液塗抹標本】

【血液像】

【白血病を疑う異常細胞】

凝固・線溶検査（黒いふたの採血管で検査します）

凝固と線溶のバランスを調べる検査です。通常外傷などにより出血が起こると、その部位に血液凝固による血栓が生じ傷口を塞ぐような感じで止血が行われます（凝固）。しかし、そのままでは血栓により血流が滞りスムーズに血液が行き渡らなくなってしまう為血栓を溶かさなくてはなりません（線溶）。すなわち凝固と線溶のバランスをとる必要があります。このバランスに異常がないかを調べるのがPT、APTT、FDPなどといった検査です。



骨髄穿刺検査

血球算定や血液像検査の結果によっては、医師が骨髄穿刺を行い胸骨または腸骨から骨髄液を採取し、臨床検査技師が骨髄像検査や染色体・遺伝子検査等を実施して骨髄の造血機能の異常を調べます。血液疾患などの診断や治療効果判定に欠かせない検査です。

臨床検査部では、週に一回、血液内科の先生方と顕微鏡下でカンファレンスを行い、骨髄像検査や染色体・遺伝子検査の結果から診断に必要な疾患の特徴や治療による病態の変化などの貴重な情報をご教示いただいています。



栄養管理部のご紹介

私たち栄養管理部は、患者さまの栄養状態の維持・改善のための栄養管理全般を担っています。病状や栄養状態に応じた食事を提供し、食事療養が円滑に行われるよう、生活習慣病や術後食、化学療法時等の栄養食事指導を行っています。また、NST（栄養サポートチーム）が、低栄養や低栄養リスクのある患者さまの栄養サポートを行っています。



病院の食事

行事食

祝祭日等に、行事食を年間23回程、提供しています。おいしく楽しく食べていただけるよう、心を込めて食事づくりを行っています。



個別対応

アレルギー、食欲不振、摂取量が少ない方、食事にむせる等の状況に応じて、食材や食事の形態、量などを調整し提供しています。また、利き手がうまく使えない方には、自立の援助のために、ユニバーサルデザインのスプーン・フォーク・食器等を提供しています。

衛生管理

厚生労働省「大量調理施設衛生管理マニュアル」に則った厨房設備の中で、マニュアルを遵守し、食事作りを行っています。職員は、体調確認・衛生チェックを行い、下処理・調理・配膳・下膳・洗浄に至る全工程で、適正に温度と時間を管理し、衛生管理を徹底しています。

安全への取り組み

お一人おひとりの食事を安全に提供するために、食札に、禁止食品なども記載し可視化に努め、ダブルチェックをしています。医療安全部・看護部と共に配膳防止対策に取り組み、安全な食事提供に努めています。



全ての食事をダブルチェックしています。

栄養食事指導

栄養食事指導

入院・外来通院患者さま対象に行っており、主治医の指示による予約制です。食事に不安のある方や生活習慣病の改善を目指す方は、主治医にご相談ください。

糖尿病教室 火・木 13:30~14:10開催

多職種が講師を分担しており、食事療養を管理栄養士が担当しています。詳細は、糖尿病・代謝・腎臓内科外来、栄養指導室掲示板、ホームページ等でご確認ください。

糖尿病食事勉強会 年間3回程度開催

望ましい食事量やバランス、食事療養のポイントやコツ等について、実際に食事を計量し、食べることで確認します。参加した方からは「良くわかった!」と好評です。事前申込が必要ですので、管理栄養士、糖尿病・代謝・腎臓内科外来、ホームページ等でご確認ください。



ご飯等を計量したり、実際に食事を食べて学ぶ、勉強会です。

NST

NST専従管理栄養士が中心となり、低栄養及び低栄養リスクのある患者さま、消化器外科周術期の患者さまに実施しています。栄養状態の維持・改善、早期回復のための栄養サポートを行っています。



NSTは、多職種で栄養サポートを行っています。

リハビリテーション科にて 出前講座の申込み受付を開始しました

リハビリテーション科では、地域の皆さまへの情報発信として、新たに「出前講座」を実施することとしました。出前講座対象一覧は下記の表をご覧ください。

なお、その他の診療科でも出前講座を行っております。詳しくはホームページをご覧ください。

講座名	内容
リハビリテーションって何？	会津医療センターで行っているリハビリテーションとは？ リハ医を中心としたチーム医療とは？
理学療法って何？	理学療法って何？どんな所で働くの？ どうしたら理学療法士になれるの？など理学療法に関するお話です。
作業療法って何？	作業療法って何？どんな所で働くの？ どうしたら作業療法士になれるの？など作業療法に関するお話です。
腰痛のいろは	腰痛の原因、心理面の影響、予防方法のポイントを整理し、腰痛のウソ・ホントのお話です。
高齢者の姿勢と腰痛 ～背すじはまっすぐに～	いわゆる腰曲りや予備軍の方に対して、腰曲りが及ぼす影響と予防の仕方についてのお話です。
肩こり解消	肩こりの原因や治療、予防方法についてのお話です。ストレッチで肩こりを解消しましょう。
腰に優しいクッションの選び方	巷には多くのクッションが出回っているが本当に楽なクッションを選ぶためには何を基準に選びますか？
どんなコルセットを選びますか？	腰痛などのためにコルセットを着用されている方。いろいろな種類があるけど何がいいの？選び方のお話です。
筋力トレーニングとストレッチ ～手術後のリスクを踏まえて～	自宅にあるもので、できる筋力トレーニングとストレッチ方法についてアドバイスします。
安全で負担が少ない介助	理学療法士の立場から移乗や移動、トイレ動作を中心とした介助方法のポイントについてのお話と体験です。
膝の痛みや不安 ～理学療法による治療と予防～	膝が痛い方、膝に不安がある方、膝について学びませんか？変形性膝関節症の治療・予防を中心にお話します。
暮らしやすい住環境整備 ～介護福祉用具と住宅改修～	住み慣れた自宅に住み続けるためには何が必要なのか？本人と介護者の立場からポイントについてお話します。
高齢者の転倒予防・対応	一度転ぶと二度、三度、転ばないために予防・対応についてのお話です。
認知症に対する関わり方 ～危険信号と予防～	認知症に対して肝心なのは早期発見です。早期発見や治療、予防についてと認知症の方への関わり方のお話です。
ストレスについて学ぶ ～ストレスの影響と解消法～	ストレスはうつ病等の精神疾患以外にも、様々な影響があります。ストレスを学び、一緒に解消しましょう。
呼吸器疾患とリハビリテーション	高齢者に多い肺炎、慢性呼吸器疾患について喫煙や誤嚥などの治療からリハビリテーションまでのお話です。
身体の運動機能チェック	筋力、バランス、動きのチェックをしてみませんか？自分の身体の状態を知るチャンスです。

●申込み・問い合わせ先

福島県立医科大学会津医療センター 経営企画室

TEL：0242-75-2242（直通）FAX：0242-75-2150



～附属病院からのお知らせ～

スリープクリニックについては、常勤の専門医が都合により不在となるため、当面、診療を休止させていただいております。

通院中の患者様には他の医療機関へのご紹介をさせていただいております。

会津医療センター

検索

5

6

会津医療センター

検索

クリスマスコンサートを開催しました

昨年の12月22日(月) 18時から患者支援センター前（外来診療受付（光のみち）前）にて「クリスマスコンサート」を開催しました。薬剤師・検査技師・看護師の協働によるハンドベル演奏や岩田有正医師によるサクソフーン演奏、研修医の先生方によるリコーダー・ピアノ合奏、西郷佳世医師によるピアノ演奏、医師や医事課職員などによる昨年大ヒットした映画「アナと雪の女王」の「LET IT GO」の生演奏などを行いました。

入院患者さんなど多くの方々足を運んでいただき、楽しいひとときを過ごしました。



託児所「つくし園」にて クリスマス会とお楽しみ会を開催しました

昨年の12月9日(火)、福島県立医科大学会津医療センター内託児所「つくし園」においてクリスマス会およびお楽しみ会が開催されました。鈴木啓二附属病院長・児島由利江副院長兼看護部長からプレゼントをいただき、園児たちはご両親の見守り中、手遊びやお遊戯など楽しく過ごしました。

サンタさんが現れたときは小さい目を輝かせ、驚きながらも嬉しそうにプレゼントをもらっていました。サンタさんは1年間いい子にしていればまた来年来ると、約束して帰ってきました。最後に保護者の方へお子様の普段の園内での様子をスクリーンに映し皆で鑑賞しました。園児一人ひとりが主役の、ほのぼのとした、温かいクリスマス会でした。

